

特集

書く力を着実に伸ばす ライティング指導の 理論と実践

巻頭エッセイ

表紙裏 ダンスでつなぐ世界 中込 孝規

特集 書く力を着実に伸ばす ライティング指導の理論と実践

01 ライティングの指導における課題とその解決へのアプローチ 工藤 洋路

04 ライティング指導実践

STEP1 「アルファベットや単語を正しく書けるようになる」ために 田中 敦英

STEP2 「英文一文を正しく書けるようになる」ために 中島 真紀子

STEP3 「まとまりのある英文を書けるようになる」ために 鈴木 悟

連載

8 実践 NEW CROWN -わたしの授業紹介- 村上 正行

10 英語教師のための基礎講座 教えることを楽しもう! 重松 靖

11 Essay Confident Speakers and Unique Presentations Matthew Miller

11 特別寄稿 イラン・ホルモズ島から 小澤 一郎

12 TEN通信 H28年度版 NEW CROWN アンケート結果のお知らせ/NEW CROWN 訂正箇所のお知らせ

ダンスでつなく世界

中込 孝規



1988年生まれ。早稲田大学商学部卒。「世界とつながるダンス教室」代表。2014年ベネッセ退職後、夢を叶えるために1万人の子供にダンスを教える世界一周の旅へ。その後、世界中の学校をインターネット中継でつなくダンス交流ワークショップを開始。2017年世界経済フォーラム(ダボス会議)・グローバルシェイパーズに選出される。

「やりたいことを先延ばしにするのは、もうやめよう」
そう思った瞬間から、本当の自分の人生が始まりました。

学生時代は、ヒップホップダンスに熱中し、アルバイトでダンス教室の講師をしていました。また、小さい頃からの夢は世界一周。でも、「英語ができない」という恐怖心から旅に出られず、留学もできず、僕の学生生活は終わりました。

転機が訪れたのは、ダンスから遠ざかり、夢も忘れかけていた社会人3年目。教育関係の交流会で出会った人たちに背中を押され、また子供たちにダンスを教えることになりました。たくさんの人に協力してもらい、レッスンは大成功。自分が大好きなことをして、子供たちも、おうちの人たちも喜んでくれる。「なんて幸せなんだろう」と思いました。主体的に動いた、初めてのこの経験に、胸の内側が震えるくらい感動し、

「やりたいことってできるんだ。こういう感動を大切にすることが生きるってことじゃん」

と、心から思いました。

そうした感動を胸に家に帰ると、部屋の壁には学生時代に書いた「世界一周する」

という紙が…。もう迷いはありませんでした。会社を退職し、夢だった世界一周へ。大好きなダンスを教えながら世界中をまわることにしました。

英語がととても不安だったので、はじめの二ヶ月間はフィリピンに語学留学へ。単語や文法も大切だけど、それ以上に「伝えようとする気持ち」、「相手のことを知りたいと思う気持ち」が大切なんだと知りました。

また、やりたいことを始めるのに出遅れてしまったと思っていた僕に、フィリピン人の先生は「**It will come in a perfect time. — 全部最適なタイミングでやってくるから、あなたにとって今が最適なタイミングなのよ**」、そんなふうに言ってくれました。

いざ出発した世界一周は、たくさんのステキな出会いがあり、まさしく自分にとって最適なタイミングでした。

アフリカのマラウイでは、2000人の子

供たちと一緒にダンスフェスティバルを開催。ルワンダでは、「あなたは私たちの家族だから、またいつでも帰っておいで」、そんなふうにしてくれる人たちもいました。

世界中にかけがえのない友だちができて自分の価値観・世界観が大きく広がり、人生がさらに豊かになりました。

子供たちの可能性・世界も広げたい。国・言語・文化のちがいを超えて、世界中の子供たち同士も友だちになってほしい。

世界を一周する中でそんな想いが芽生え、帰国後「世界とつながるダンス教室」を東京と神奈川に開校。全国の小・中・高等学校にも出張し、世界の話をしたり、自分が行った世界中の学校とインターネット中継をつなぎ、子供たち同士でダンス交流をする活動をしたりしています。

やりたいことに一歩踏み出したら、人生が大きく変わりました。「大好きなことをやって生きる人生」を旅する人が一人でも増えるといいなと思います。



世界一周中に見た、ビクトリアフォールズにかかる虹(ジンバブエ)



ダンスワークショップでは、動くたびに心の距離が縮まる(ザンビア)



タイで出会った友人と合同ダンスレッスンを行うなど、帰国後も交流は続く

書く力を着実に伸ばす

ライティング指導の

理論と実践



英文を書くこと=ライティングは、正しくアルファベットの文字をつづることから始まり、まとまりのある文章を書くことまで踏むべきステップが多く、試行錯誤されている先生方も多いのではないのでしょうか。

本特集では、各ステージにおけるライティングの課題や解決へのアプローチを
工藤 洋路先生に解説いただき、また、教室ですぐに実践できる指導例を
田中 敦英先生・中島 真紀子先生・鈴木 悟先生にご紹介いただきます。

- ① 総論：ライティングの指導における課題とその解決へのアプローチ（工藤 洋路）
- ② 実践例：ライティング指導実践
 - STEP1 「アルファベットや単語を正しく書けるようになる」ために（田中 敦英）
 - STEP2 「英文一文を正しく書けるようになる」ために（中島 真紀子）
 - STEP3 「まとまりのある英文を書けるようになる」ために（鈴木 悟）

ライティングの指導における 課題とその解決へのアプローチ

工藤 洋路（玉川大学）

中学校におけるライティング指導

中学校における「書くこと」の指導は、文字を書く段階から、最終的には、数十語かそれ以上のまとまりのある英文を書く段階まで、広範囲の指導が必要である。

2017年3月に公示された新学習指導要領では、小学校の外国語科における「書くこと」の目標として、「大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする」が挙げられていることから、中学校の初期段階では、まったくの最初から文字指導を行う必要はないかもしれない。しかし、

これは楽観的な見方とも言える。この目標は「語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする」と続いている。つまり、「書き写す」ことまでは行えるが、何も見ずに自分で単語を書ける段階までは達していないとも言える。やはり、単語を書くための橋渡しとして、中学校の最初の頃は文字の指導を行う必要があるだろう。

新学習指導要領が掲げる中学校の「書

くこと」の目標には、「日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする」や「社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする」がある。これらを整理すると、

- ▶自分の考えや気持ちなどを書く
- ▶話題は日常的から社会的なものまで
- ▶理由などを含めたまとまりのある文章
- ▶聞いたことや読んだことへの応答
- ▶簡単な語句や文を用いて書く

に集約される。これらの項目を3年間で、多様なライティング活動の中で繰り返し扱うための長期的な指導計画を立てて、それを実行することが必要となる。



「書き写す」という基礎活動

小学校の目標で示されている「書き写す」ことに関して、10歳の時に私がアメリカの小学校で体験した書写について紹介をしたい。私は、小学校4年生の1年間アメリカに滞在しており、現地の小学校に通っていた。毎日ではなかったが、朝登校すると黒板にびっしりと英文が書かれており、席に着くとすぐに、みんなはそれをノートに写していた。英語がほとんどできなかった私でも書き写すことは何とかできるので、先生は私にも写すように指示をした。そのときのことで鮮明に覚えているのは、「姿勢」を注意されたことである。真っ直ぐに

机に向かって座るのではなく、少し斜めに座って、写す紙に対して、若干傾いた角度から鉛筆を入れなさいとの指導であった。確かに、まわりの友だちもみんな斜めに体を傾けて、必死に黒板の英語を写していた。日本では、真っ直ぐ座ることが正しい姿勢だと指導を受けていたため、アメリカでの指導は不思議に思えたが、確かに、斜めから紙に向かって書いた方がスムーズに書くことは実感できた。

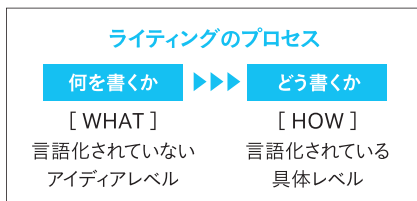
この姿勢は特に筆記体を書く際に効果を感じられるが、いずれにせよ、文字指導を本格的に行うならば、このような姿勢

にまで注意を向けていくことの意義は高い。スムーズにペン（鉛筆）を走らせることができれば、単語やフレーズを一つのまとまりとして体（手）で認識できることになり、結果として、書いた英語をインプットしやすくなると思われる。最終的なライティングのfluencyはこのようなhandwriting (or typing) の技術的なことも関係してくる。頭を書くべき英語や単語のつづりが浮かんでいても、この技術がないと、スムーズに書くことができずに、書く意欲も失ってしまうことになる。書くことの基礎として、書写の指導は疎かにしてはいけない。



センテンスレベルのライティング

何らかの英文を書く際には、まず、何を書くのか（WHAT）を考え、そして次に、それをどう書くのか（HOW）を考える。和文英訳であれば、WHATの部分は与えられているので、HOWの部分だけに組み組めば英文が完成する。ライティングのプロセスを簡潔に「WHAT→HOW」という2段階と考えれば、和文英訳はプロセスの後半部分を扱う活動であると言える。また、絵や写真の描写もWHATの部分が与えられていることから、大まかに言えば類似した活動と言える。



新学習指導要領の「書くこと」の目標として「自分の考え」を書くことが挙げられているが、これに対応した活動では、WHATの部分を自分で考える必要がある。したがって、和文英訳のようなWHATが与えられている活動だけでは、自分の考えを書く活動にはならない。いかにして、書くべき内容を生徒自身が考えて、それを英語で書き表すような活動を行っていくのが、書く力を伸ばすためのポイントとなる。ただし、自分の考えを書かせたいからといっ

て、いきなりパラグラフレベルのライティングを課すことは難しい。そこで、文レベルであっても、WHATを生徒自身が考える活動を行っていくことが必要となる。

文レベルのライティングは、平成27年度と平成28年度に実施された「英語教育改善のための英語力調査」（以降、「英語力調査」とする）の中に見ることができる。両年度とも次の例のような対話を完成させる形式の問題が出題された。

あなたは教室で友達のKenに話しかけます。
 You: Hi, Ken. Sorry, but I want to ask you something. ()
 Ken: Sure.
 You: I forgot mine. I just need to write my name on my homework.
 Ken: OK. Here you are.
 You: Thanks.

この問題では、対話の内容から()に入るべき内容を想像して、その内容を英語で書き表すことが求められる。この例では、Youが*I want to ask you something.*と述べていることから、()には、具体的をお願いする内容が入ることが想像できる。また、Youが*I just need to write my name on my homework.*と言っていることから、書くものが欲しいということが判断できる。これでWHATの部分が決ま

るので、それを英語にどう表すかを考えるHOWの段階において、*Can I borrow your pen?*といった英語が産出できればよいということになる。

この問題は、「英文が書かれていなかったり、文脈から外れたことを書いている」場合は0点、「文法上の誤りがほぼ見られず、ほぼ正しく、内容を伝えることができる」場合は1点となる。平成27年度と平成28年度で、それぞれ2問が出題されているが、1点を取った生徒は、平成27年度の1問目が42.3%、2問目が11.8%であり、平成28年度の1問目は30.4%、2問目が9.2%と非常に低い割合となっている。「自分で内容を考えて、それを英語で表現する」という2段階のプロセスを経ることは生徒にとって難易度が高いのかもしれない。普段の活動がHOWの部分を持つものが多ければ、なおさら、このような問題への対応は難しくなる。もちろん、これは実際に自分の考えを書いているわけではないので、厳密な意味での実際のライティングのプロセスを扱っているわけではない。しかしながら、自分で内容を考えて書くという意味では、WHATのプロセスも辿っていることから、実際にライティングを行う際に必要なスキルを扱っていると言える。

パラグラフレベルのライティング

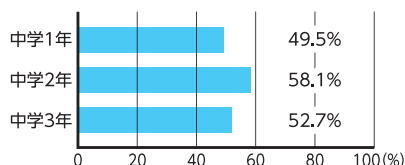
パラグラフレベルのライティングを行うためには、内容的にまとまりのある文章を書くことが求められる。現行の学習指導要領についての「中学校学習指導要領解説」では、「内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力が十分ではないという課題」があることを示している。その課題を解消するために「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと」という活動を、平成20年に、現行の学習指導要領へと改訂する際に付け加えたとしている。それから10年近く経過した現在、この課題はまだ見られるだろうか。先述した「英語力調査」によれば、「文を作ることはできても、まとまりのある文章を書くことに課題がある」としている。すなわち、まだ「まとまりのある文章を書く」という力の育成に問題があると言える。

「まとまりのある文章を書く」ことに課題があるということを見つめてみる。先の「英語力調査」で出された問題は、平成27年度は「あなたが1年のうちでもっとも好きな月は何月ですか。1つ取り上げて、なぜそう思うか、その理由を書きなさい」、平成28年度は「あなたが将来やってみたいことや、なりたいものは何ですか。1つ取り上げて、なぜそう思うのか、その理由を書きなさい」であった。この調査の報告書には、実際に生徒が書いた作文の事例が掲載されていないため推測の域を出ないが、まとまりのある文章を書く力に課題があることを示している類似した調査（例：平成22年に実施された「特定の課題に関する調査（英語：『書くこと』）」

によると、1つのトピックについて2、3文程度しか書けない、または、文が並んでも羅列的になっている、という2つの問題点が明らかになっている。

1つ目の課題である、数文程度しか書けないことについては、学習意欲が低いことが原因であることも考えられるが、それ以外には、普段、自分の考えを英語で書く練習をあまりしていないことが挙げられる。ベネッセ教育総合研究所が実施した「中高生の英語学習に関する実態調査2014」によれば、「自分の気持ちや考えを英語で書く」活動を「よくしている」と「ときどきしている」の割合は、合計で、中学1年生は49.5%、2年生は58.1%、3年生は52.7%となっている。このように

「自分の気持ちや考えを英語で書く」活動を「よくしている」「ときどきしている」



「ときどきしている」を含めても5割前後ということで、まずは書く活動の実施頻度を上げていき、書くことへの抵抗感を減らし、より多くの英文を産出できる力を身につけることが可能になるだろう。

2つ目の課題として挙げた「羅列的な英文になってしまう」ことについては、いくつか原因がある。例えば、I like August because I like swimming in the sea. I like summer festivals. といった英文はよく見られる。becauseで繋ぐことで多少の「まとまり感」は見られるが、

すぐに夏祭りの話題に飛んでしまっている。もう少し、海で泳ぐことの話を広げて続けることで、羅列的な文章を避けることができる。もう1つの原因は、この英文に見られるように、特定の文構造（ここではI like ~.）しか使われていないことである。英語の学習が進むにつれて、本来は、使えるべき文法事項は増えていくことが期待できるはずである。しかし、難しい文法事項を使って間違っただけの場合に、テストでは減点されてしまうという懸念から、確実に自信を持って使える平易な文法事項のみに頼ってしまう。授業中は「間違いを恐れず書きなさい」と伝えていても、テスト問題の採点が正確さに関する減点法であれば、安全運転になってしまうのも仕方がない。授業中に行う評価も含めて、「正確性」だけではなく、「複雑性」や「多様性」という観点も取り入れるべきである。

数文程度しか書けないこと、そして、書いても羅列的な文章になってしまうことの両方に関わる問題点として、「モデル文への過度な依存」が挙げられる。まったく何も書けない生徒に対しては、モデル文の一部を入れ換えて、自分の言いたいことに近づけて書かせることは必要である。しかし、常にモデルの書き換えを行っている、テスト時などモデルがない場面では、何を書いてよいか分からず、ほとんど白紙答案になってしまうことがある。モデルを使う時は、文章構成や言語材料などの観点で、モデルを分析した上で使わせることが大切であり、また、モデルがない状況でのライティング活動も実施していくことが必要である。

最後に…

ライティング指導は、文字を写すことからパラグラフを書くことまで、非常に長い道のりである。まずは、根気強くライティングを教えるという教師の姿勢が必要となる。ポイントをしぼり、日常的にライティング活動をじっくりと行っていくことが、最終的には近道となる。

著者紹介



工藤 洋路

- ・東京外国語大学外国語学部卒業、同大学院博士課程前期・後期修了（学術博士）
- ・日本女子大学附属高等学校教諭等を経て、現在玉川大学文学部英語教育学科准教授

ライティング指導実践

「アルファベットや単語を正しく書けるようになる」、「英文一文を正しく書けるようになる」、「まとまりのある英文を書けるようになる」、この3つのステップの指導実践を、田中 敦英先生、中島 真紀子先生、鈴木 悟先生にご紹介いただきます。



Step 1

「アルファベットや単語を正しく書けるようになる」ために、

中学1年生には「読みやすく、書きやすい」文字を



田中 敦英
(桐朋中・高等学校教諭)

3つのポイント

- 1 文字指導は、楽ではない
- 2 読ませる文字・書かせる文字の書体には配慮を
- 3 4線も、実はいろいろ



文字指導は、楽ではない

1

「先生、今さらですけど、英語は理不尽ですよ。bとdとpとqの4つ、線対称と点対称で、地味に間違えやすいじゃないですか」。教えている高校生が、ある日私に言いました。ハッとする発言でした。確かに、いわゆる「ブロック体」の4文字を

b d
p q

と並べてみると、よく似ています。慣れていなければ混乱してもおかしくない4文字です。この生徒は中学1年生の秋くらいまで区別に苦労したと言っていました。

私たち英語の教師は、英語の音や文字に慣れていないせいで、学習者である生徒たちが感じる習得上の困難を実感したり、十分想定したりすることが難しくなりがちです。とくに文字指導について、世の中には様々な書体があふれる中、学習の初期段階でどのような文字に出会わせ、どのように書けるようにしていくのか、なか

なか指針を持ってないことが多いのではないのでしょうか。

考えてみると、文字の認識という点では、私たちは日々大変に高度なことをしています。例えば日本語を読むときに、「シ」と「ツ」、「ン」と「ソ」、「リ」と（数字の）「11」、あるいは「く」と「つ」と不等号の「<」や「>」—これらを読み間違えることは、あまりありません。しかし、幼児や学習歴の浅い日本語学習者の目から見ると、これらは互によく似ていて、場合によっては区別がつかえません。学習経験を積んで認識できるようになってきたとしても、書く段階になると難度は増します。微妙な角度の違いをつけることができなったり、左右対称に「鏡文字」を書いたりしてしまったりすることもあります（「ち」と「さ」などは、書体によっては本当に鏡文字になってしまいます）。英語のアルファベットは日本語の文字ほど複雑でないと

はいえ、単純であるがゆえに区別が付きにくい要素を持っています。b, d, p, qなど字形の違いだけでなく、同じ文字の大文字と小文字（Sとs, Cとcなど）の高さの違いをマスターするのに苦労する場合があります。

文字の手書きについては、手を実際に動かして書く技術(motor skills)の熟達も一筋縄ではいきません。丸みを帯びた文字をなかなか上手に書けない、縦線どうしの高さがそろわないなど、乗り越えなければならない困難がいくつもあります。そもそも、お手本となる「ブロック体」が、人が手で書きやすい形ではない、円と直線の組み合わせ(ball & stick)になっていることも多くあり、お手本どおり書こうとしているのになかなかうまく書けるようにならない、という事態も生じやすくなっているのではないのでしょうか。



読ませる文字・書かせる文字の書体には配慮を

2

英語の文字を初めて本格的に導入する段階において、授業および教材で使う文字を慎重に選ぶことは、学習者を混乱させないためにもとても重要です。中学1年生の初期に使う教材をCenturyやTimes New Romanなどセリフ(ひげ)つきの書体で作成することはあまりないかもしれませんが、Lucida Sans UnicodeやVerdanaなど、読みやすいけれどaの字形が生徒に書かせているものと違う書体を選ぶことはあるかもしれません(私はLucida系をついで使ってしまう)。しかし、初期段階で目にする文字と書く文字を一致させ、「読みやすく、書きやすい書体」を中心に使っていくことで英語の文字に対する苦手

意識を予防するという配慮は、積極的にしたいものです。

読みやすく、書きやすい書体については、「丸みのある部分が正円ではなく、楕円形または涙滴形になっていると書きやすい」「自然につなげて書くのに適した字形になっているとよい」といった特徴が思い浮かびます。例えば、Sassoon Infant / Primaryのシリーズや、Between 3のラインナップだと、これらの条件に合ったものが見つかるのではないのでしょうか。

ちなみに、私が担当している2017年度のNHKラジオ「基礎英語1」のテキストでは、スキット本文や例文にSassoon系のフォントを採用しています。一部字形を調整していますが、重要フレーズをそのまま上からなぞったときに書きやすくしてあります。また、NEW CROWNではBook 1の手書き文字の見本に手書き用のオリジナルフォントを採用し、上記のような要素に考慮しています。このような配慮は初学者の大きな助けになっていることでしょう。

Sassoon Infant フォント

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz



4線も、実はいろいろ

3

書体と関連する要素ではありますが、文字指導の初期段階で使用する「4線」についても、実はさまざまな選択肢があり、配慮できる余地があります。市販の英語用ノートをはじめ多くの教材では、4つの線どうしの間隔が等しくなっていますが、上から順に4:5:4のように、基線からその上までの高さ(x-height)を少し高くすると、とくに小文字が書きやすくなり、大文字と小文字のバランスもよくなります。4:5:4は規格化された比というわけではありませんが、イギリスのhandwriting

の練習帳などでは、x-heightが少し高めの4線が使われています。単語や文を練習するためのhandoutを自作するとき、少し意識してみたいかがでしょうか。

なお、「基礎英語1」のテキストでも、2016年度から本文のフレーズを練習するスペースでx-heightが高めの4線を採用しています。教科書や問題集などの教材ではペンマンシップやノートとの兼ね合いもあり、等間隔の4線が採用されることも十分あると思いますが、違う選択肢もあることがじわじわと浸透していくと、より

学びやすい教材が増えていく気がします。

文字の認識と手書きの指導についての配慮は、私も関心を持っているものの、まだまだ勉強不足で確固たる提言をすることもできず、実践の経験も足りません。国内・国外の優れた教材や実践を学び続けながら、生徒の助けになる配慮ができるようになっていきたいと思っています。

4:5:4の4線の例

Saturday

参考文献：Matchett, C. (2012). *Handwriting Practice 1 & 2*. Schofield & Sims. 篠田治夫(1948). 「英習字」『新英語教育講座第3巻』研究社。

はみだしコラム①

大文字Iで追跡可能?

文字の形にはいろいろな考え方があり、「正解」はありませんが、私は「手書き文字がセリフ(ひげ)なしを基本とする以上、大文字のIも縦棒1本で十分」と思って中学1年生の文字指導にあたっていました。私の勤務校は中高6年間担任陣の持ち上がり基本なので、担任している学年の生徒たちの英語力のありようを追跡していくことができるのですが、最近意外な発見がありました。私が中学1年時に教えた生徒たちだけが、高校2年生になってもIを縦棒だけで書くのです。字形の是非はともかくとして、授業内外で多種多様な書体に触れていても、中学1年生の授業で仕込まれた書き方は4年たっても残っているということを実感し、驚きました。何を教え、何を身につけさせるか。文字指導に限らず、自問は続きます。

はみだしコラム②

音と文字のずれがtoughな英語

音と文字の一致という観点から見ると、英語は日本語ほど一致度が高くないものの、フランス語ほど離れていない、微妙な位置にいる気がします。とはいえ、日本人学習者にとっては、英語のつづり字は十分trickyです。フォニックスなど音と文字の対応を覚えやすくする取り組みにももちろん意義はありますが、個別に地道に学ぶ(&教える)必要がある要素も多いですね。先日、英語母語話者によるやや自虐的なツイート"English can be weird. It can be understood through tough tough thorough thought, though." (英語は変だ。でも、一生懸命よく考えれば理解できる)を目にして、笑ってしまうと同時に、英語のつづりの手ごわさを改めて感じました。

「英文一文を正しく書けるようになる」ために、

意味ある一文を美しく書く

3つのポイント

- 1 美しく書く
- 2 英語と日本語の違いを理解し、正しい語順で書く
- 3 “意味ある一文”を書く



中島 真紀子
(筑波大学附属中学校)

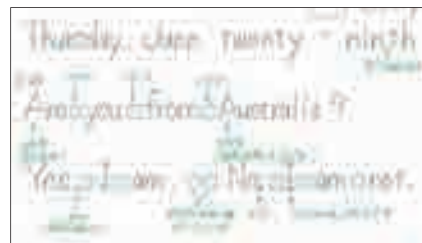
美しく書く

アルファベットを習得したら次は単語を書きだし、そして文も書き始めることでしょう。この段階で私が大切にしているのは、書き方のルールをしっかりと確認することです。「文頭は大文字」「単語と単語の間は適度に空ける」「文末はピリオド、クエスションやエクスクラメーションマーク」「コンマのつけ方」等々…時間をかけて指導します。また、文を書いて練習するときには、正しく発音すること、意味がわかっていることが大切ですので、教科書本文を書く

練習の際には①正しい音を聞く ②意味を理解しているか確認する ③声に出して読めるようにする、それから初めて④ノートに発音しながら書いてみる、という段階を守らせます。また、単語は一語ずつではなく、意味の塊で写すよう促します。1年生レベルの短文であれば、一度に声に出して言えて、一度で写せるのが理想です。

未習の教科書本文をノートに書く予習をさせる先生もいますが、多くの生徒にとっては、写すという「作業」にすぎないので

はないでしょうか。発音できず意味もわからない英文を書くのは、わけのわからない暗号を写しているにすぎません。たかが一文であっても、目の前の生徒にとって“意味ある一文”を書かせたいものです。



英語と日本語の違いを理解し、正しい語順で書く

いざ自分の言葉で書いてみよう、となると、書き方がわからず手が止まる、語順がグチャグチャになってしまう、ということがよくあります。公立中学校で指導していた時には、日本語と英語の語順は違うということを常に伝えつつ、田尻悟郎先生の

語順表^{※1}を生徒一人一人に持たせ、迷ったときには自分で確認しながら文を作ることを見せていました。また、阿野幸一先生は、語順感覚を育てるために「英語では、相手に伝えたい新情報が文の後ろに来るという文の構造に慣れさせること」「I like

と言った後に、さあ何が好きかという…という気持ちで、続きに当てはまる名詞を聞いたり話したりする練習が大切^{※2}と述べています。

※1 <https://www.benesse-gtec.com/fs/tajiri/guidance/pdf/gojunhyo.PDF> ※2 阿野幸一、太田洋、萩原一郎、増淵素子(2016).「お悩み解決! 新人教師応援委員会」『英語教育vol.64 No.12』,46-48 大修館書店.

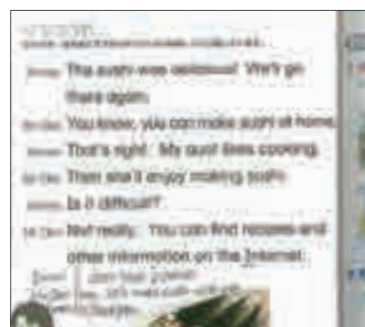
“意味ある一文”を書く

ある程度の力がついてきたら、たかが一文でも“意味のある一文”を書かせたいと思いませんか。そのためのとっておきの活動があります。それは、『教科書一文つけ替え活動』と『一文つけ足し活動』です。元々は、教科書本文がさらに生き、教科書本文をより自分の言葉で語れるようになる活動はないか、という思いから始めました。まず、教科書の内容をきちんと把握しようと読み込まないと、意味の通った文につけ替えたり、つけ足したりすることはできません。ですから、一文を書くだけの

活動でも、その生徒にとって意味のある、自分の言葉を語る一文となるのです。右は一文付け足しの例です。文法的には突っ込みたい部分もありますが、意味はきちんと通っていますし、何より教科書本文自体がより生き生きして見えてきます。前後の意味、または本文の全体像を捉えて、それにふさわしい意味ある一文を書かせることは、「意味の通ったまとまりのある英文」を書くための大切な一歩になるのではないかと考えます。

「書くこと」は、生徒にとってハードル

が高いものです。だからこそ、「意味ある一文を美しく書ける」「これが言いたいという一文が書ける」こうした力をつけていきたいと、強く思っています。





「まとまりのある英文を書けるようになる」ために、

発話「量」を増やす! —「話すこと」から「書くこと」へ

3つのポイント

- 1 既習語彙・表現をやりくりして書く力をつける
- 2 ゼロから英文を書こうとしない
- 3 「正確さ」ではなく「流暢さ」で評価する



鈴木 悟
(都立両国高等学校)



既習語彙・表現をやりくりして書く力をつける

1

日本語で思考したことを英語に変換して書こうとしても、今の英語の力で言えないことを書くことはむずかしい。無理に英語で説明しようとしても、結局、和英辞書を活用して日本語を英語に変換する作業に終始したり、常に教師の支援がないと書けなくなってしまったりする。「自分が言いたいことを、既習語彙や表現をやりく

り(リサイクル)して言える力」をつけることが、「まとまりのある文章を書く」鍵となる。

そのためには、まず「話すこと」の力を育てることが肝心だ。教科書本文の音読練習にとどまらず、毎時間生徒同士の英語での「やりとり」を含む種々の言語活動を通じて、「自分の言葉」として使え

る定型表現を増やし、さらにそれらの表現を単元毎のスピーチやプレゼンテーションの原稿作成に活かして、発信する経験を継続的に積むことが、即興的な発話を促し、まとまりある文章を書く際の一助となる。詳しくはTEN特別増刊号Vol.1(2015)の「即興で話す力を育てる指導」を参照されたい。



ゼロから英文を書こうとしない

2

まとまりのある文章を書かせる際、ゼロから英文を書かせるのではなく、前の学年や単元で取り組んだ活動とのつながりを意識して振り返りながら指導するとよい。NEW CROWNでは、自分の関心のあることや事物の説明をする発信活動が複数回設定されている。例えば、3年Lesson 5 USE Speak「行きたい場所についてスピーチしよう」を指導する際は、2年Lesson 5 USE Write「好きな国についてエッセイを書こう」、Project 3「自分の

町を紹介しよう」で、まとまりのある英文(理由・経験・具体例を含む)を書いた経験が活きる。各テーマとも「場所」の紹介で、定型表現はリサイクルして使える。

また、各LessonにはPracticeがあり、毎回「話したこと」を「書いてみよう」という活動が設定されている。これを工夫して、USEやProjectの発信活動の基礎となる活動にすることもできる。例えば、3年Lesson 3に、言語材料である“Have you ever been to ~?”を

使って「自分の好きな場所に行ったことがあるか」を尋ねる活動がある。ここでは「自分とその場所が好きな理由や場所の説明」も2年生の発信活動で使った定型表現や言語材料を意図的に使わせて、複数の英文で表現して相手に伝えるようにする。また、相手をかえながらやりとりを複数回繰り返し、異なる意見や英語表現を相手から学ぶことで発話「量」が増え、文章を書く際の困難さが軽減する。



「正確さ」ではなく「流暢さ」で評価する

3

「まとまりのある英文を書く」指導の過程で大切なことは、評価の仕方である。定期考査等で、短時間で即興的に「まとまりのある英文」を書かせる場合、文法や単語のつづりの間違いは起こる。問題に関連した内容が書かれており、伝えたいことが読み手に十分伝わるにも関わらず、英文の正確さに欠けるために得点が低くなってしまふことはないだろうか。このような採点は、少ない英文で正確に書いた方が、得点が高いということになり、伝

えたいことがあっても書こうとしなくなる。

特に中学の段階では、内容面に重点を置き、「間違いを恐れず、多くの情報(理由・経験・例など)を相手に具体的に伝えようとする生徒」を育成することが、高校での英語力の向上のためにも必要である。評価項目の1つである「正確さ」は、「間違いがあることで読み手の理解を妨げるものなのかどうか」の観点で採点してもよい。例えばI enjoyed play piano.といった、文法的な間違いが文章全体で

散見されたとしても、読み手の理解を妨げるものではないと判断する。

ただし、これは最初から「間違った英文を書いてよい」ということを生徒に奨励している訳ではない。1文を正確に書く、「質」を意識した指導と併せて、即興的に書く場面では、常に「量」を意識した指導と評価の継続が「まとまりのある英文を書く」力の向上、及び、英文を書くことへの意欲や自信を高めていく上では欠かせない。

栃木県真岡市立大内中学校
村上 正行 先生
 (1・3年生担当)



本時の授業

BOOK1 Lesson7
 2時間目
 (canの疑問文の導入)



◆授業を考える時に大切にしていること

言語を、他者とのコミュニケーションを通して自然に身に付けていくことを重視し、次の4点を意識しています。

- ①その学習内容（コンテンツ）は生徒の知的好奇心をかき立て、自己関連性のあるものになっているか。
- ②その学習方法は生徒がコミュニケーションをする必然性を生み出しているか。
- ③その授業は多様な「ひと・もの・こと」との出会いがあり、生徒の人間力を総合的に高める内容になっているか。
- ④3年間の系統性を意識し、単元のゴールを決め、バックワードデザインの考えに沿って授業が作られているか。

授業紹介

授業開始

①世界の遊びを知ろう(8分)

教師が世界の遊びとそのルールについて、canを含む疑問文を用いて生徒とインタラクションします。生徒が活動を通して、題材への関心を高め、新出言語材料の使用場面・意味・形に気づき、理解を深めるためです。

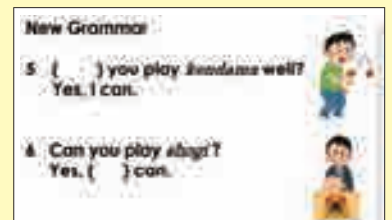
例 Can you play *otedama*? We play *otedama* with small soft fabric balls. Can you play it? Can your grandmother play it? I can play it very well. (インタラクションしながら、実演してみせる。)



Pre-speaking

②理解度を見取るワークシート(5分)

学習内容の理解度を見取るためのワークシートに取り組むことで、教師が生徒の理解度を確認できます。それと同時にWhile-speakingの活動に使用する言語モデルの提供にもなるように配慮します。



③Word Bank -いろいろな動作-(5分)

While-speakingで生徒が使用すると予想される語彙を活動前に強化します。(play, cook, make, swim, eat, run, fly, draw, speakなど。日本語での説明はせずに、パワーポイント等の視覚情報や教師のジェスチャークイズを用いて練習します)



While-speaking

④Find someone who...(24分)

Pre-speakingで理解された言語材料を用いて、コミュニケーションなスピーキング活動を行います。インフォメーションギャップがあることで、他者とのコミュニケーションをする意味を作り出します。

活動の概要

生徒に、___ can play *otedama*.等の主語のないcanの肯定文が書かれたワークシートを配布し、文章にあてはまる友だちを英語で会話しながら探していく活動です。___ can play *otedama*.の下線部分には、それをすることができる友だちの名前を入れます。会話をする際にはOh, really?等、プラス1の投げかけ(質問)をするよう促します。

◆本時のポイント

一つ目はcanの疑問文の導入として、「生徒が知らない世界の遊び」を紹介することです。これにより、生徒の学習に対する好奇心を引き出し、なおかつターゲットセンテンスへの気づきを起こします。次にWord Bankを活用して、語彙の補充をすることです。生徒がコミュニカティブに活動するためには、ターゲットとなる文法に加えて、その文法とよくセットになって使用される語彙を充実させてやる必要があると考えます。そのうえで、Find someone who...の活動でコミュニカティブにcanの疑問文とその答え方を習得させることが本時のポイントです。

Lesson7 指導計画

自己関連性の高い言語の使用を通して、「理解された言語」から「使用できる言語」にまで生徒の言語力を高める。

GET (4時間)

▶1・2時間目:クイズやインタラクションを通じてcanの使用場面・意味・形への気づきと理解を促します。(本時は2時間目)

▶3・4時間目:GETの読解を通して、Bobが車いすバスケットボールのように向き合ってきたかに気づかせていきます。

USE (3時間)

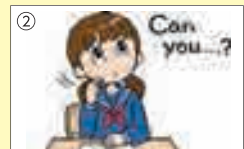
▶USE Read (2時間), USE Speak (1時間)を通して定着と活用力を促進していきます。

文法のまとめ(1時間)

自己表現「未来のわたしができること」(1時間)

活動の進め方

- ①ALTとデモンストレーションをしてモデルを見せます。そうすることで、活動の説明をシンプルな英語で進めることができます。(5分)
- ②Find someone who...を行うための疑問文を個人で考えさせます。(書かせることはせずに単純にCan you...?を使えば質問できることに気づかせます)(7分)
___ can play otedama.とワークシートがあれば、生徒はCan you play otedama?という文を考え、その後、③④の活動に取り組みます。
生徒の実情に合わせて、ペアで相談しながら疑問文を考えさせても良いと思います。
- ③ペアで疑問文とその答え方の練習をします。(5分)
- ④Find someone who...を行います。(最初に全て埋めることができた人が出た時点で終わりにすることをあらかじめ伝え、競争原理を働かせます)(7分)



⑤ 定着度を見取るワークシート(5分)

ワークシートを活用して、既習事項 (canの肯定文と疑問文を中心に) に関する知識の整理を進め、定着率を見取ります。ここでの活動が、家庭学習のモデルになるように、問題の内容を工夫します。

⑥ 宿題としての英作文活動(指示に3分)

「今のわたしができること」という英作文に挑戦します。スポーツや遊び、料理など、ここでは内容選択を個人に任せすることで、自己関連性を高めます。単元の最初に「今のわたしができること」という英作文を書き、続く読解活動(Use ReadやFurther Reading) で車いすバスケットボール等で活躍する選手の姿や、希望を持って生きることの大切さを学び、最後には「未来のわたしができること」という、未来視点に立った英作文を書き、発表するデザインを考えています。こうした単元を見通したデザインをすることも工夫の一つです。

Post-speaking

授業終了

■ 授業を終えて

教師とのインタラクションを通して、生徒が世界の遊び等に関心を持って聞きたい様子がありました。ここでは、世界の遊びについてのインタラクションを通してターゲットセンテンスへの「気づき」が起きるのがねらいでした。Find someone who...では他者とのコミュニケーションを通して言語の使用感を体感的に学ぶことがねらいでした。気づき、理解された言語を、コントロールされたシチュエーションで繰り返し使用することにより、言語の定着を起こそうと考え、活動を設定しました。

Word Bankで必要語彙を導入・練習しておくことの効果は高かったと考えます。小さなステップを大切にデザインすると、言語活動の充実度が違ってきます。Post-speakingでは、全体での学びを個人に返すこと、知識の定着および活用が起きることがねらいでした。また、本日の宿題が、単元最後のゴールとして設定してある英作文へのスモールステップであることも工夫のひとつです。何度も体験を繰り返しながら、学びを深めていくことが大切だと思います。

教えることを楽しみましょう!

重松 靖 Shigematsu Yasushi (国分寺市立第二中学校)

BRITISH COUNCILの英語指導者向けウェブサイト“TeachingEnglish”で、「生徒の学習意欲を高めるために欠かせない6つのこと」について書かれた興味深い記事を読んだ。それは、

1. Teacher enthusiasm
2. Feeling of encouragement from the teacher
3. A sense that the teacher really believes in the student's progress and success
4. Genuine involvement of the teacher, maintaining good class and group relationships
5. Supportive, safe and secure atmosphere
6. Valuing student ideas and participation, encouraging autonomy, giving students the chance to make the classroom space their own

(https://www.teachingenglish.org.uk/sites/teacheng/files/Seminars_motivating.pdf)

第一にあげられたのが、「教師の情熱・熱意」だ。学習者の学習意欲を高める Motivation Strategies を提唱するハンガリーの心理言語学者、ゾルタン・ド

ルニエイ (Zoltán Dörnyei) の研究を要約したものとして紹介されているが、大いに共感させられた。

中学1年の英語の授業開き、「外国の人と話してみたい」「字幕を読まないで映画が観たい」生徒たちはそんな夢と英語の授業に対する期待を、瞳をキラキラ輝かせながら話してくれた。しかし、中学の3年間で彼らの夢を叶えてあげることはできない。私たちの使命は、「これからも英語・外国語を学び続けていこう!」という意欲を持たせて卒業させることだと思っている。

しかし、時間とともに瞳の輝きは失せ、授業中うつむく生徒が出てくる。そんな生徒たち一人一人の顔を思い浮かべ、何をすれば顔をあげてくれるか、どうすればあの生徒の笑顔を見ることができるとかを考え、授業を組み立てるのが教えるプロとしての私たちの役目だ。そのエネルギーになるのが、「生徒たちの可能性を信じ、何とかしよう!」という私たちの熱意と情熱だ。

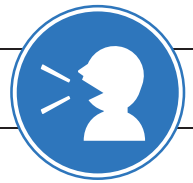
褒めること、励ますことなど肯定的な評価も意欲と自信につながる。“Good!”, “Excellent.” など、口頭での評価も大切だが、生徒たちの関心が最も高い定期テストを工夫してはどうだろう。

多くのテストは例えば、大問1は二者択一の○×問題、大問2は書き換え問題などのように出題形式ごとに作問され、そ

の中身は語彙や文法などが混在している。

そこで、大問1は新出語彙の運用ができるかどうかを多肢選択式で、大問2は教科書にアンダーラインを引かせた重要語句や重要表現を穴埋め形式で、大問3は新出文法事項を、などのようにテストデザインを固定化すれば、生徒は何をどのように勉強すればよいかがわかってくる。また、自由作文では、「課題達成」「正確さ」「意味の伝達」「創意工夫」など、複数の観点から評価するよう採点方法を工夫すれば、「とにかく何か書こう!」という意欲は高まる。「先生、俺20点とれた!頑張ったでしょ!」と言ってきた生徒の笑顔が忘れられない。

日本の中学校教師の勤務時間がOECD加盟国の中で最長だったとか、中学校教師の約6割が週60時間以上勤務し、過労死の目安とされる水準を超過しているとか、教員の過酷な勤務状況が報道されている。もはや、教職は公的ブラック企業と揶揄されることもある。しかし、生徒たちが何かに一生懸命に取り組んでいる姿には本当に感動させられる。生徒たちの心からの笑顔は、疲れや苦勞を一気に吹き飛ばしてくれる。そんな姿や笑顔が見たくて私たちは教員になったはずだ。教えることに喜びを感じながら、授業改善に取り組んでいこうではありませんか。生徒たちの笑顔のために!



Matthew Miller (Tokyo Woman's Christian University)

One of the most challenging activities in a foreign language is giving a speech. To help students improve public speaking skills, concentrate on building confidence and creating memorable speeches.

An underconfident student will not enjoy speaking and their nervousness makes the audience uncomfortable. Building a student's confidence is the first step towards creating a good speaker. Have your students start with short speeches on easy topics in front of a partner and then a group of three or four people. Once comfortable, have them go to another group and talk for a full minute. In every lesson, give them the opportunity to stand in front of the class and talk for about twenty seconds gradually increasing the time. This will steadily make them accustomed to speaking in front of larger groups.

Another important part of building students' confidence is to give sincere and specific praise with critical feedback. Simply saying "Good job!" is not effective. This is better: "Your eye-contact was very natural. I liked how you looked at each member of the audience and made them feel you

were talking to them personally." Comments like this will make the students realize your praise is genuine and it will make them understand and be proud of their strengths.

As a judge for university speech contests, I learned that unusual and meaningful speeches, not speeches with perfect English, are more likely to win. The best speeches will either be a completely original topic, or the speaker will have outstanding presentation skills that captivate the audience. Help your students find something unique about themselves such as an experience, a talent, their humor, or their passion. Have that be the focus of their speech. Also, spend less time constructing a grammatically correct speech and more time learning how to gesture, to move around on the stage, to use their voice, and to include visuals.

In addition, watching videos of others' presentations (try Toastmasters or TED Talks) is useful for aspiring speech-givers. However, the best teacher is experience, so encourage your students to go participate in or even organize their own speech contests.

特別
寄稿

イラン・ホルモズ島から

小澤 一郎 (大阪経済法科大学アジア研究所)

「イラン」というと、たいていの日本人は「砂漠」「暑い」と連想するようである。だから「イランの島」と言われても、にわかにはイメージしがたいかもしれない。だが、イランはペルシア湾岸に長大な海岸線を持ち、人の住むものだけでも20以上の島がある。

ホルモズ島は、ペルシア湾の入り口にある同名の海峡の北側、本土から15kmに位置している。ホルモズの名は、近年ではイランによる海峡封鎖によって日本でも報道された。ペルシア湾を扼するこの海域は、古来より戦略的に重要であった。

16世紀初め、ヨーロッパから海路で西アジアに進出してきたポルトガル人は、この島の重要性に目を付け、要塞を建設して交易の拠点とした。その後、サファヴィー朝の最盛期を現出したアッバース1世（在

位1588-1629）は、国内の安定を確保したのちペルシア湾岸に注目、遅れて進出してきたイギリス人の助力を得て、ホルモズ島からポルトガル人を排除した。この時、アッバース1世は対岸にバンダレ・アッバース（アッバースの港）を造営し、交易の中心を移動させたため、ホルモズ島は商業的な重要性を喪失していく。

ホルモズ島へは、バンダレ・アッバースからボートで向かう。ポルトガル人の要塞は島の北部、岬の突端にある。観光地化されるわけでもなく、民家の近く、島の人々の生活に溶け込んでいた。現在、要塞はサファヴィー朝とイギリス人による攻撃の被害もあって崩れつつあるが、何とか形をとどめている。その姿は、今は小さな漁村となっているこの島が、かつて確かに歴史の舞台であったことを物語っている。



栈橋から要塞までの海沿いの道筋には民家が点在し、岸には漁船が係留されていた。人の姿はまばらで、「のどか」という表現がしっくりくる。この島を含め、ペルシア湾岸の人々の肌の色はザグロス山脈を挟んで北側のイラン高原の人々よりも暗く、チャードル（頭から全身を覆う女性の伝統的衣装）もカラフルなものが多い。大都市であるテヘランのみを見ていると気づかないことであるが、ペルシア湾岸にはイラン高原とは違う世界が広がっているのである。この小さな島は、そうした異なる世界を包含しているイランの多様性に改めて気づかせてくれる場でもある。

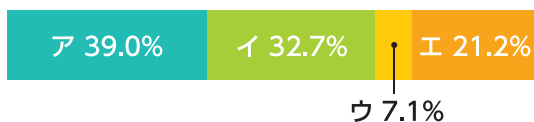
平成28年度版 NEW CROWN アンケート結果のお知らせ

2017年4月に、現在NEW CROWNをご使用いただいている学校を対象に
教科書についてのアンケートを実施いたしました。
ここに、その結果の一部をご報告させていただきます。
長大なアンケートにご回答いただきました先生方に、この場を借りてお礼申し上げます。

GET

Q GETを使った授業展開の順序について、
あてはまるものはどれですか。

ア	文法 → 語句・表現 → 本文 → アクティビティ
イ	文法 → 語句・表現 → アクティビティ → 本文
ウ	本文 → 文法 → 語句・表現 → アクティビティ
エ	その他

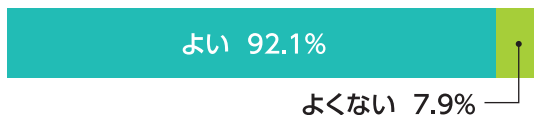


Q 「GETの本文」の扱いについて、
あてはまるものをお選びください。

1位	音読	96.6%
2位	内容理解	81.2%
3位	文法導入	56.4%
4位	ロールプレイ	53.0%
5位	和訳	50.4%

USE Read

Q USE ReadのWords欄の新出語句に日本語の意味
を付記しました。あてはまるものをお選びください。



Q 「USE Readの本文」の扱いについて、
あてはまるものをお選びください。

1位	内容理解	85.5%
2位	音読	69.2%
3位	黙読	48.7%
4位	和訳	29.9%
5位	リスニング	29.1%

言語活動

Q 「言語活動」について、あてはまるもの
をお選びください。

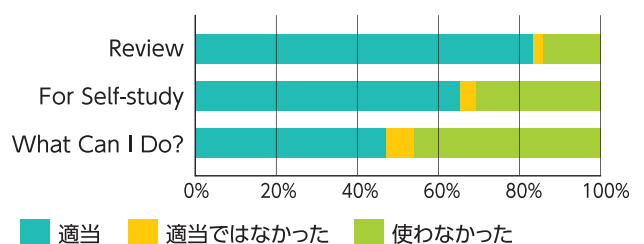
今のままでよい	40.5%
もっと手軽で小さめの活動を増やしてほしい	43.2%
もっとプロジェクト的で大きめの活動を増やしてほしい	9.9%
その他	6.3%

Q USEの言語活動について、教科書で新しく、
またはもっといいものに扱ってほしいもの
をお選びください。

1位	ペアワーク	35.9%
2位	即興会話	34.2%
3位	グループワーク	33.3%
4位	スピーチ	29.1%
5位	Show & Tell	26.5%
6位	プレゼンテーション	25.6%
7位	新聞などの記事	23.1%
8位	ディスカッション 要約	21.4%
9位	インタビュー パラグラフライティング	20.5%
10位	ディベート 日記	17.9%

新コーナー

Q Lessonのあとなどにある、Review, For Self-study,
What Can I Do? の配置・配列は適当でしたか。



題材ランキング

Q 各学年の題材についての評価をお選びください。(4段階評価)

Book 1

1位 I Am Tanaka Kumi

2位 School Life in the USA

3位 My Family

4位 I Like Soccer

5位 Our New Friend

Book 2

1位 Uluru

2位 India, My Country

3位 Aloha!

4位 My Dream

5位 The Ogasawara Islands

Book 3

1位 I Have a Dream

2位 The Story of Sadako

3位 Rakugo Goes Overseas

4位 Places to Go, Things to Do

5位 My Favorite Words

Q 教科書で新しく、またはもっと詳しく扱ってほしい「題材(トピック, テーマ, ジャンル)」をお選びください。

1位 食 2位 映画 3位 音楽 4位 日本の歴史 5位 防災/福祉

その他：平和, 人権, 世界情勢, AI (人工知能), オリンピック/パラリンピックなど

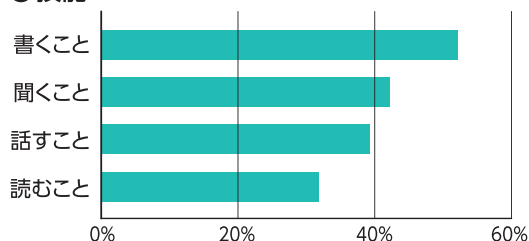
Q 教科書で新しく、またはもっと詳しく扱ってほしい「国や地域」をお選びください。

1位 アジア 2位 途上国 3位 欧州 4位 アフリカ 5位 北米

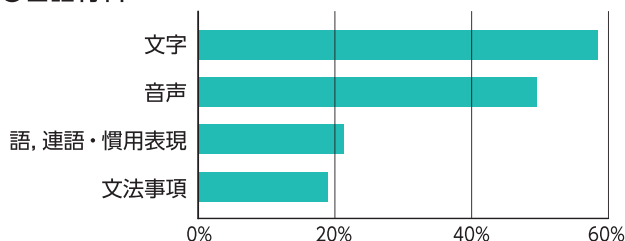
中学1年の導入

Q 中1の最初の小中接続期に、特にていねいに扱った方がよいものをお選びください。

①技能



②言語材料



NEW CROWN 訂正箇所のお知らせ

平成28年度版 中学校英語教科書『NEW CROWN』に訂正がございます。以下の訂正につきましては、すべて文部科学省の許可のもと、平成30年度用の教科書では修正して供給いたします。先生方や生徒のみなさまにご迷惑をおかけいたしますことを深くお詫び申し上げます。ご指導の際には、ご留意くださいますようお願い申し上げます。

学年	頁	箇所	原文	訂正文
1	75	側注Words	holiday(s)	holiday
1	86	英文2行目	Please say "Thanks" to Koji for me.	Please say <u>thanks</u> to Koji for me.
1	136	⑤	ir [əɹ]	ir [e:r]
2	3	Lesson 7, 3行目	the most popular of ~	the most popular of ~
3	59	側注Words	nurse's office [nɜ:siz ó:fis]	nurse's office [nɜ:rsiz ó:fis]

編集後記

Teaching English Nowは、先の号 (Vol.37) より、サイズが大きく、また、色数も変更して、体裁を新たにいたしました。形だけの変化にとどまらず、内容もよりいっそう充実させ、先生方に役立つ情報をお届けできるよう努めてまいります。(TEN 担当)